

(手動)未回答施設に1台ずつあるものと推定して, 東海地方41, 北陸地方28台になっていた。

液体シンチレーションカウンタ: 東海地方8, 北陸地方2台となっていた。

キュリーメータ: 東海地方63, 北陸地方27台使用され in vivo 使用施設のうち, 東海地方7割, 北陸地方は8割の施設に普及していた。

## 20. 眼窩疾患におけるガリウムシンチグラム

竹田 寛 中村 和義 松村 要  
瀬口みち子 中川 毅 田口 光雄

(三重大・放)

眼窩へのガリウム集積に関し, 眼科的疾患を有しないもの, および片側性眼窩腫瘍を有するものに対し, それぞれ臨床的検討を行なった。両側眼窩に異常を認めない201症例に関する検討では, 非対称性集積を示した11例(偽陽性率5%)を除く190例にて両側眼窩に対称的集積ないし非集積を認め, その陽性率は70%であった。うち性別による陽性率は男60%に対し女91%と明らかな性差を認め, 年齢に関しては, 若年者ほど陽性率および集積程度が高く, 高齢になるに従い低下し, ガリウム集積程度と年齢との間に有意の逆相関( $r = -0.569$ ,  $N = 190$ ,  $P < 0.001$ )が認められた。ついで片側性眼窩腫瘍の確認された21例について検討した。内訳は, 悪性腫瘍8例, 良性腫瘍5例, 慢性炎症性腫瘍8例である。患側眼窩陽性率は67%で, 偽陰性率は33%である。疾患別による陽性率は, 悪性腫瘍50%, 良性腫瘍80%, 炎症性腫瘍75%で, 相互に差を認めないが, 疾患に関係なく腫瘍径が15 mmを越えるものでは93%(14例中13例)が陽性を示し, 15 mm以下では20%(5例中1例)しか陽性を示さず, ガリウム集積陽性率は, 腫瘍径に依存するものと思われる。それゆえ, 本法により陽性を示した眼窩腫瘍は, 腫瘍, 炎症にかかわらず, 少なくとも15 mm以上の径を有するものであると推定され, 手術的除去の必要を示唆するものである。従って, 本法は, 手術適応を決定する一検査として臨床上価値の高いものと思われる。

## 21. 興味ある intrathoracic goiter の2症例

三宅 秀敏 道岸 隆敏 利波 紀久  
森 厚文 久田 欣一 (金大・核)

RI 検査で興味ある所見を呈した intrathoracic goiter の2症例を報告した。1例は, 頸部甲状腺腫脹を認め, 両側前上縦隔を占め, RI venography で right innominate vein の閉塞および collateral pathway を証明できた non-toxic hyperplasia with adenomatous goiter の症例で, 他の一例は, 頸部甲状腺は触れず, 右前上縦隔にみられた autonomous functioning thyroid adenoma の症例である。

## 22. RI による経時的観察を行なった腎移植の1例

近藤 邦雄 木戸長一郎 (愛知がん・放診)  
森本 剛史 高木 弘 安江 満悟  
(同・外)

核医学における Computer の導入が進み当院においても, 54年7月に GE 社製 Med IV Computer system が導入され, 短時間現象の記録解析が可能になった。今回急性拒絶反応を起こした移植腎の1例を5か月間経過観察する機会を得たので報告する。

移植後6, 13, 34, 83, 110, 119, 139日めに RI 検査施行, DIPA による Angiography の収集画像より, 腎と総腸骨動脈分岐部におおの ROI を設定し bosec 間の time activity curve を作成 pattern の比較検討を試みた。6, 13, 34日めはいわゆる normal pattern, 83, 110, 139日めはやや不良な同一 pattern を示し, 119日めは Rejection の pattern を提示, クレアチン値より検討すると110日めに Rejection が発生しており, Time-activity curve より判定できるかを出流の流入流出の角度より検討したところ流出の角度に差異が認められた。

## 23. 新副腎スキャン用剤 $^{75}\text{Se}$ -Scintadren による副腎疾患の評価

二谷 立介 瀬戸 光 柿下 正雄  
羽田 陸雄 石崎 良夫 (富山医薬大・放)  
森 厚文 久田 欣一 (金大・核)

新副腎スキャン用剤  $^{75}\text{Se}$ -Scintadren を副腎疾患を疑われた23例の患者に投与し, 副腎スキャン用剤としての